

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツ学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	実習
科 目 名	柔道整復実技Ⅱ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限	後期	教室名	第2校舎302
担 当 教 員	仲村 剛	実務経験と その関連資格	専科教員(平成20年～現在に至る)、認定実技審査員(平成29年:整復実技) 講道館柔道初段(平成24年)、鍼灸接骨院勤務(平成12年～平成26年:接骨院業務)			
<p>《授業科目における学習内容》</p> <p>柔道整復師の業務範囲となる下腿遠位部・足根骨の骨折、股関節の軟部組織損傷、大腿部の軟部組織損傷、膝関節部の軟部組織損傷を中心に、診断方法から後療法までを学ぶ。</p>						
<p>《成績評価の方法と基準》</p> <p>期末試験評価:100%</p>						
<p>《使用教材(教科書)及び参考図書》</p> <p>柔道整復学理論編(全国柔道整復学校協会編集) 柔道整復学実技編(全国柔道整復学校協会編集), 適宜資料の配布をおこなう 【参考図書】 解剖学(全国柔道整復学校協会編集)</p>						
<p>《授業外における学習方法》</p> <p>事前に教科書内容の確認をとること。また、配布プリントの復習をおこなうこと。</p>						
<p>《履修に当たっての留意点》</p> <p>国家試験範囲終了まで残り半分となりました。国家試験合格に向けて一緒に突き進んでいきましょう。</p>						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	授業を 通じての 到達目標	解剖学的構造を確認し、コンパートメント症候群の病態を理解する。		柔道整復学理論編 (全国柔道整復学校 協会編集) 柔道整復学実技編 (全国柔道整復学校 協会編集)	今回の講義範囲の予習 をしておくこと。	
	各コマに おける 授業予定	コンパートメント症候群				
第2回	授業を 通じての 到達目標	足関節の解剖学的構造を理解し病態を理解する。		柔道整復学理論編 (全国柔道整復学校 協会編集) 柔道整復学実技編 (全国柔道整復学校 協会編集)	前回の講義内容の復習 と今回の講義内容の予 習をしておくこと。	
	各コマに おける 授業予定	アキレス腱炎・アキレス腱周囲炎、アキレス腱断裂				
第3回	授業を 通じての 到達目標	足関節の解剖学的構造を理解し病態を理解する。		柔道整復学理論編 (全国柔道整復学校 協会編集) 柔道整復学実技編 (全国柔道整復学校 協会編集)	前回の講義内容の復習 と今回の講義内容の予 習をしておくこと。	
	各コマに おける 授業予定	腓骨筋腱脱臼、シンスプリント				
第4回	授業を 通じての 到達目標	足関節の解剖学的構造を理解し、捻挫の診断から後療法までを理解する。		柔道整復学理論編 (全国柔道整復学校 協会編集) 柔道整復学実技編 (全国柔道整復学校 協会編集)	前回の講義内容の復習 と今回の講義内容の予 習をしておくこと。	
	各コマに おける 授業予定	足関節・足部の捻挫				
第5回	授業を 通じての 到達目標	履修内容をまとめ、履修した傷病についての国家試験問題と同等の問題が解けるようになる。		柔道整復学理論編 (全国柔道整復学校 協会編集) 柔道整復学実技編 (全国柔道整復学校 協会編集)	前回の講義内容の復習 と今回の講義内容の予 習をしておくこと。	
	各コマに おける 授業予定	確認とまとめ				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	足関節の解剖学的構造を理解し、捻挫の診断から後療法までを理解する。	柔道整復学理論編 (全国柔道整復学校協会編集) 柔道整復学実技編 (全国柔道整復学校協会編集)	前回の講義内容の復習と今回の講義内容の予習をしておくこと。
		各コマにおける授業予定	足関節・足部の捻挫		
第7回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	扁平足障害の病態を理解し、対処方法を理解する。	柔道整復学理論編 (全国柔道整復学校協会編集) 柔道整復学実技編 (全国柔道整復学校協会編集)	前期前半の講義内容の復習をしておくこと。
		各コマにおける授業予定	扁平足障害		
第8回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	解剖学的構造を理解し、後足部の有痛性疾患の病態を理解する。	柔道整復学理論編 (全国柔道整復学校協会編集) 柔道整復学実技編 (全国柔道整復学校協会編集)	前回の講義内容の復習と今回の講義内容の予習をしておくこと。
		各コマにおける授業予定	後足部の有痛性疾患		
第9回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	解剖学的構造を理解し、後足部の有痛性疾患の病態を理解する。	柔道整復学理論編 (全国柔道整復学校協会編集) 柔道整復学実技編 (全国柔道整復学校協会編集)	前回の講義内容の復習と今回の講義内容の予習をしておくこと。
		各コマにおける授業予定	後足部の有痛性疾患		
第10回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	解剖学的構造を理解し、前足部の有痛性疾患の病態を理解する。	柔道整復学理論編 (全国柔道整復学校協会編集) 柔道整復学実技編 (全国柔道整復学校協会編集)	前回の講義内容の復習と今回の講義内容の予習をしておくこと。
		各コマにおける授業予定	前足部の有痛性疾患		
第11回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	解剖学構造を確認し、頸部捻挫および頸部疾患の病態を理解する。	柔道整復学理論編 (全国柔道整復学校協会編集) 柔道整復学実技編 (全国柔道整復学校協会編集)	前回の講義内容の復習と今回の講義内容の予習をしておくこと。
		各コマにおける授業予定	頸部捻挫, 頸部の疾患		
第12回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	解剖学的構造と特徴を理解し、胸背部における軟部組織損傷を理解する。	柔道整復学理論編 (全国柔道整復学校協会編集) 柔道整復学実技編 (全国柔道整復学校協会編集)	前回の講義内容の復習と今回の講義内容の予習をしておくこと。
		各コマにおける授業予定	胸背部の軟部組織損傷		
第13回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	解剖学的構造から腰部におこりやすい、損傷・疾患を理解する。	柔道整復学理論編 (全国柔道整復学校協会編集) 柔道整復学実技編 (全国柔道整復学校協会編集)	前回の講義内容の復習と今回の講義内容の予習をしておくこと。
		各コマにおける授業予定	腰部の軟部組織損傷, 腰部の疾患		
第14回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	履修内容をまとめ、履修した傷病についての国家試験問題と同等の問題が解けるようになる。	柔道整復学理論編 (全国柔道整復学校協会編集) 柔道整復学実技編 (全国柔道整復学校協会編集)	前期後半の講義内容の復習をしておくこと。
		各コマにおける授業予定	後半履修部分のまとめと確認		
第15回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	履修内容をまとめ、履修した傷病についての国家試験問題と同等の問題が解けるようになる。	柔道整復学理論編 (全国柔道整復学校協会編集) 柔道整復学実技編 (全国柔道整復学校協会編集)	前期範囲の教科書、配布プリントを見直しておくこと。
		各コマにおける授業予定	確認と総まとめ		